



いたびつ 板櫃 <校訓>
真理の探究
自主躍進

令和5年11月27日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市小倉北区白萩町8番1号
HP: www.kita9.ed.jp/itabitsu-j/

<学校教育目標>

自立・共生～自立心にあふれ、他を思いやる心をもった生徒の育成～

<目指す生徒像>

- ① 「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒(凡事徹底)
- ② 自ら考え、正しく判断し、進んで学習や諸活動に取り組む生徒(自立)
- ③ 思いやりの心を持ち、協力し合って集団生活の向上に努める生徒(共生)
- ④ 与えられた仕事に対し、役割を果たすことのできる生徒(責任)

<人は思った通りの人間になる> 板櫃中のみなさんへ

～強く思い、それを確信した時に思いは実現する～ 先生からのアドバイス

2年前、東京オリンピックで大活躍したソフトボールの上野由岐子選手はこう言っています。「13年という年月を経て、最後まで諦めなければ夢はかなう、ということ、たくさんの方々に伝えられたと思う。ソフトボールはまた次回からなくなってしまうが、また、諦めることなく前に進んでいけたらと思う」この言葉は「成せば成る」と意味が近いと思います。彼女が引退を幾度となく覚悟しながら、オリンピックを目指したことはあまりに有名です。彼女がオリンピックで勝つことを信じて勝負ができたのは、「私はこれだけ練習してきたのだから、誰よりも辛い思いをしてきたのだから勝てる!」という気持ちだったのかもしれない。

受験を例にすれば、「〇〇高校に入学したい」と思う人がいても、それを確かなものにするためには、それなりにテストでよい結果が出ていなければ自分を信じることはできませんよね。もし、テストで思うような結果が出なければ、心の中で「まだまだ点数が足りない」と思ってしまうので、結局は「自分は無理だろうな」と思う場合が多いようです。「どうしても〇〇高校に入りたい」と思う人は、それなりの結果が出るまで勉強や学校生活、学校行事に集中して、入学できる確信が自分の中に生まれてくる、というリズムになっている様に思います。(部活動に置き換えると、「どうしても試合に出たい」と思う人は、それなりの結果が出るまで練習に取り組んで、その結果、練習試合などで力が発揮でき、本番の試合に出場できる確信が自分の中に生まれてくる、というリズムです)

つまり、「人が思った通りになる」という意味での「思う」とは、そう簡単なことではないのかもしれませんが、「誰もが勉強すれば高校に合格できる」というものでもないかもしれないので、【強く確信できる自分=努力できる自分】という面もあると思います。

しかし、まずは思わなければ何もできないし、もしくは、ずっとできないと思っただけではその通りになってしまいます。また、自分自身で無理だと思っていることの大半は、「自分で作り上げた壁」に負けている場合が多いのです。本気でやってみて結果がダメでも、何かに本気で取り組んだことで、「ここまでやったんだ!」と自分を認めることができるかどうかが重要だと先生は思います。そしてそのことは、今後の自信につながると思います。

志(こころざし)を高く、大きな目標をもちたい人は、大きな覚悟をもって確信できるように取り組みましょう!どんなに大きな夢を掴(つか)んだ人でも、最初から上手くいったわけではないと思います。何度も失敗をしたり、くじけそうになったりしたのも、決して諦めなかったから、成し遂げることができたのではないのでしょうか。

みなさんも、せっかくの中学校3年間…頑張っ、大きな夢を実現させて下さい。すべての成功者は、思い、そして実現したのですから…。頑張れ、板櫃中の生徒たち!



もし、あなたが負けると考えるなら、あなたは負ける
もし、あなたがもうダメだと考えるなら、あなたはダメになる
もし、あなたが勝ちたいと思う心の片隅でムリだと考えるなら、
あなたは絶対に勝てない



もし、あなたが失敗すると考えるなら、あなたは失敗する
世の中を見てみる、最後まで成功を願いつづけた人だけが成功しているではないか
全ては“人の心”が決めるのだ



もし、あなたが勝てると思うなら、あなたは勝つ
「向上したい」「自信をもちたい」と、もし、あなたがそう思うなら、
あなたはその通りの人になる



ナポレオンの言葉といわれています。(諸説あり)

さあ、再出発だ
強い人が勝つとは限らない
すばしい人が勝つとも限らない

「私はできる!」そう考えている人が結局は勝つのだ

文化発表会第2部が開催されました!

11月24日(金)午前中に文化発表会第2部を開催しました。①生徒会オープニング、②イングリッシュコンテスト発表、③1年生学年合唱、④2年生学年合唱、⑤生徒会エンディングです。第1部では、3年生の学年合唱、吹奏楽部の演奏、ビブリオバトルでしたね。合唱についていえば、どの学年も素晴らしい歌声で、板櫃中の伝統を引き継ぐものだったと思います。校長先生が教師になったばかりの時は、文化発表会(当時は文化祭)は2日間開催でした。生徒会劇、合唱、演劇、有志によるコンサート、職員劇、外部の団体の演奏会、講演会、漫才、コントなど大学祭並みの内容だったことを覚えています。高校では、中学校よりも規模が大きくなります。そして、体育大会と同様に、生徒が創り上げていくという意味合いも強くなります。



今年の文化発表会は第3部の展示を残すのみとなりました。体育大会でも板櫃中のみなさんの「すごさ・すばらしさ」を感じましたが、文化発表会でも同様のことを思いました。保護者の方々とお話す機会がありましたが、「どの学年も歌声がすごかった」と褒めていただきました。これからも板櫃中学校の生徒としての自覚をもってがんばりましょう!

【校長先生の話】みなさん、おはようございます。令和5年度板櫃中の文化発表会第2部です。今日はイングリッシュコンテストの発表、1・2年生合唱、エンディングです。1部でも話したように、成功のポイントは「見る人の態度」です。ステージで頑張る友達に精いっぱい拍手をお願いします。今日も全校が一つになった感動を与えることができる、素晴らしい文化発表会となることを願っています。保護者の皆様、1部に続き、ご参観ありがとうございます。子どもたちに大きな拍手をお願いします。以上で先生の話が終わります。